

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人黒木学園 認定こども園徳力団地幼稚園

1. 本園の教育目標

個性を発揮しながら 豊かな遊びを通して 自分らしく生きる力を育む

目指す幼児像 <命を大切にすることども> <考え行動する子ども> <夢中になって遊ぶ子ども> <思いやりのある子ども> <互いに協力する子ども>

「遊びの中からすべてを学ぶ」という創立者の理念を引き継ぎ、幼児一人一人の個性と思いを大切に、たくましく生きる力の基礎を育む保育の創造を目指す。

2. 本年度の重点目標

- ①体を動かす楽しさを味わう保育の展開
- ②幼児が豊かな体験を得られる地域との交流の推進

3. 評価項目の取組と成果

評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

自己評価結果の総括表

重点的に取り組む目標 ①	評価項目	評価指標及び評価結果					総括評価	意見・説明	
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標			成果結果
体を動かす楽しさを味わう保育の展開	『幼児期に身につけておきたい36の基本動作』を元に、園内外での運動遊びを工夫する	4	『36の基本動作』を組み合わせた運動遊びや一日60分以上体を動かす活動に取り組む	3.3	4	様々な運動遊びを楽しみ、一日60分以上、体を動かすようになった	3.3	B	<ul style="list-style-type: none"> ・一年を通して園庭や、雨天時は遊戯室等で体を動かすようにしていたが、もっと一日の時間配分を考えたり、他学年、他クラスと場の共有を考えたりすることが必要であった。 ・地域の公園やグラウンド、園外保育で出かけた先でも体を動かす場所を見つけ、できることをしようと心がけていた。 ・一日60分以上体を動かすという時間が、他の活動との兼ね合いもあり、なかなかもてなかったり、『36の動作』をまんべんなく遊びに取り組み入れる難しさがあったりした。
		3	園内外で『36の基本動作』を意識した運動遊びに取り組んだり、遊びに合わせて遊具や道具を取り入れたりする		3	全身や各部位を使った遊びや、遊びに合わせて遊具や道具を使うことを楽しむようになった			
		2	身近なもので「遊びたい」と思える環境構成をしたり取り組みやすい運動遊びに誘ったりして、幼児と一緒に楽しむ		2	運動遊びに意欲や興味をもって参加し、体を動かす心地よさや楽しさを感じるようになった			
		1	『幼児期に身につけておきたい36の基本動作』を知り、幼児と一緒に体を動かして遊ぶ		1	体を動かす時間が増え、好きな運動遊びをするようになった			

重点的に取り組む目標 ②	評価項目	評価指標及び評価結果					総括評価	意見・説明	
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標			成果結果
幼児が豊かな体験を得られる地域との交流の推進	園生活が家庭や地域社会とつながり、地域の自然・人・行事や公共施設などの資源を積極的に活用していく『まちなか保育』の展開を工夫する	4	園外活動、地域の催しなどに参加し、幼児が地域の一員として生活していることを感じられるようにする	3.8	4	地域の人とつながり活動することで、幼児が地域の中で生活していることを感じるようになった	3.8	A	<ul style="list-style-type: none"> ・以前から散歩や園外活動は行ってきたが、園全体の取り組みとして保育者がねらいを明確にもつことで、更に活動内容がひろがり、地域とのつながりが深まった。 ・園内だけでなく、地域の人や場所、自然等とふれあい認められることで、幼児が楽しみ、喜び、自尊感情も高まってきたように感じる。 ・地域の方にも喜んでいただけているという実感がもてた。今後も地域の核となる園になれるように、活動を続けていきたい。
		3	地域の催しに保育者や幼児が参加したり、園の催しに地域の方を招いたりして交流できる機会をもつ		3	幼児が地域の人との交流や催しに参加することを楽しみ、喜ぶようになった			
		2	地域の人や施設、催しものなどに親しみや興味をもてるように働きかける		2	幼児が地域の環境やできごとに興味・関心をもつようになり、出かけることを喜ぶようになった			
		1	散歩や園外保育に出かけ、園の周りの環境（人・自然・施設・乗り物等）を知らせる		1	園外に出かけることを楽しみ、園周辺の環境を知ることができるようになった			

4. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
① 体を動かす楽しさを味わう保育の展開と運動量の保障	世界保健機構（WHO）や幼児期運動指針（文部科学省）でも『幼児は毎日60分以上、身体を動かすことが奨励されている』ということを全職員が理解し、楽しく身体を動かす時間や環境を確保する。園庭、ホール等での運動遊びを工夫し、園の施設だけでなく、地域の公園、グラウンド、遠足等での体験の充実を図る。
② 幼児が地域との交流を楽しみ、互いに大切にしようとする保育の展開	昨年度、地域に出向き様々な出会いを体験した幼児たちが、さらに交流を楽しんだり、活動に参加することを喜んだりする保育の展開を工夫する。 新たな出会いや触れ合いの機会を模索し、地域に開かれ、地域に愛される園を目指し、地域で子どもを育てる、という意識を発信したい。

5. 実施内容

No.	内容	期日
1	第1回 学校関係者評価委員会 ・委員紹介 ・本年度重点目標の説明	令和5年6月2日（金） 13:00～14:00
2	第2回 学校関係者評価委員会 ・運動会参観、講評 ・保護者アンケート実施	令和5年10月7日（土） 9:00～12:00 令和5年10月中旬
3	第3回 学校関係者評価委員会 ・公開保育、講評 ・自己点検、自己評価実施	令和6年2月16日（金） 10:00～12:00 3月上旬
5	第4回 学校関係者評価委員会 ・今年度考察、評価 ・令和6年度の重点目標設定	令和5年3月14日（木） 13:00～14:00

6. 学校関係者評価委員会の評価

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の規制が緩和され、本園も従来の保育体制へ戻す部分と、コロナ禍で見直した行事、活動をバランスよく取り入れる工夫がなされていたように思う。特に、今年度は地域に出向くことを推進し、地域に開かれた園、地域とつながり子どもを育てる園、という目標をかかげ、様々な活動が展開され、子ども達の心身の成長により影響を与えていたと感じることができた。

認定こども園へ移行して5年が経ち、0歳から5歳までの円滑な教育推進の形が進みつつあるのではないかと推察する。

園は幼稚園教育から成り立ちであり、乳児保育の概念やスキルの定着にはまだ尚、研鑽が必要と考えられるが、引き続き接続の円滑さを目指して保育を推進されればと思う。

次年度も子どもたちの健康に留意しながら、創立者の理念でもある「遊びの中で子どもが育つ」ということに真摯に取り組んでほしい。

学校関係者評価委員
学校関係者評価委員
学校関係者評価委員

委員会実施日

令和6年3月29日